

集落営農の組織化支援

要約

農業従事者の高齢化と後継者不足により、特に中山間集落での農業の担い手不足は深刻化し、集落機能の低下、耕作放棄地増加につながる可能性がある。その対策として集落全体で農地を維持する「集落営農」の取り組みを支援し、新たな集落営農組織が設立された。

現状(背景)と課題

- 担い手の減少・高齢化により、農地の維持が困難な集落が増えてきている。
- 集落のみんなで農地を守る取り組みを行う合意形成が必要。



目標

- 集落営農の組織化に向けた合意形成
1 集落

活動内容

- 集落営農を希望する農業者と進め方やスケジュールについて打合せを重ねた。
- 集落の営農実態を把握するため、栽培品目や農地利用の状況、機械の所有状況の調査を行った。
- 理解者の拡大をはかるため、集落営農について集落全体への説明会の支援を行った。
- 農地の基盤整備の必要性と活用できる補助事業についての説明を行った。
- 集落営農の先進地を視察し、集落営農した場合のイメージを膨らませた。

成果

- 集落営農の必要性が理解され、農地所有者の合意形成を図ることができた。
- 集落全体を一つの農家として、農地や機械の共同利用により営農を行う集落営農組織（営農組合「丹生の里」(五條市丹原町)）を設立することができた。



集落役員、関係機関との会合



先進地の視察



集落説明会での合意形成



集落営農組合の設立総会

普及活動のポイント

- ・個人での小規模な水稲作では機械のコストが過大なため永続的な営農ができないことなどを説明し、集落営農の必要性の理解を高めた。
- ・地域集積協力金や農業者の自己負担なしで農地の基盤整備を行うことができる補助事業の提案と合わせて集落営農の必要性を説明した。

対象の変化

- ・集落営農の必要性を集落全体の農地所有者が理解された。
- ・共同作業の取りかかりとして、水稲育苗を共同で行うことが決まった。
- ・集落営農の活動として、ネギ等高収益作物への取組を行って行くことが決まった。
- ・効率的な水稲栽培を進めるため、農業機械の共同化が決まった。
- ・集落営農組織の設立とあわせて農地の基盤整備を行うことが合意された。

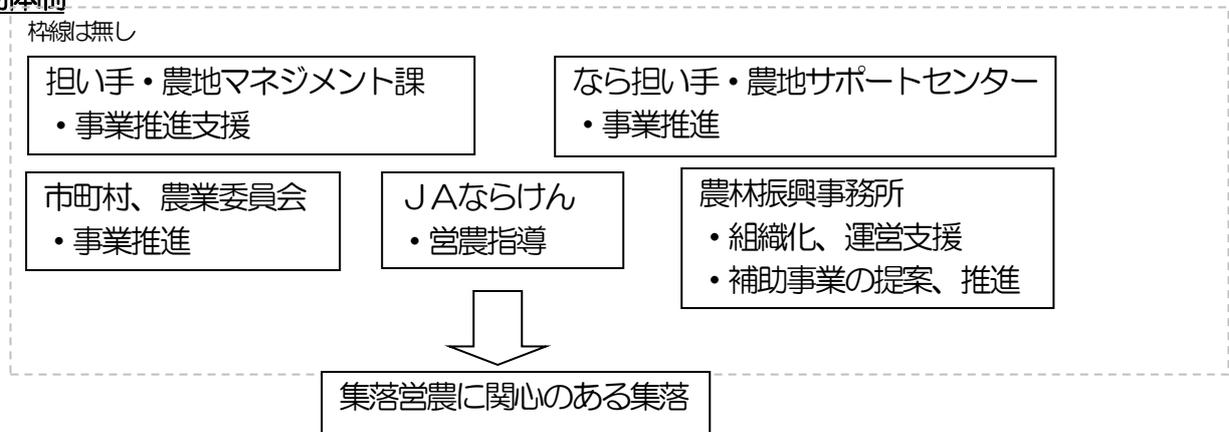
対象者からのコメント

- ・集落の農地を守っていくためには集落全体で助け合って農作業を行う体制をつくることが不可欠であった。集落の合意のもと集落営農組織を立ち上げることができてよかった。
- ・これからの組織運営についても関係機関の支援を得ながら進めていきたい。

これからの活動ビジョン

- ・新たに設立された組織に対しては、運営がスムーズに行われるように支援を行う。
- ・集落営農に関心のある集落に対しては、営農実態の把握や理解者の拡大、組織化への合意形成のための支援を行う。

活動体制



用語解説

集落営農

「集落の農地をどのように管理するか」を集落の農家で話し合って役割分担し、共同で農業をすることで将来の営農の不安を解消していく取り組み

地域集積協力金

集落の農地の一定規模を担い手に集積することで、その協力金として集積規模に応じた補助金が集落に支払われる。

南部農林振興事務所農業普及課
担当：担い手・農地マネジメント係 堀野・萩原・長城
奈良の意欲ある担い手育成支援事業（集落営農育成確保支援事業）